

平成 25 年度施設運営の全体概要

1 施設運営の基本方針

平成 25 年度も昨年度に引き続き、次の三点を施設運営の基本方針に定めて運営を進めてきました。

- 特色ある教育事業の実施を通じて青少年教育のナショナルセンターとしての役割を果たすなど教育事業の充実に努める。
- 研修支援事業の一層の改善・充実に努力するとともに、利用者の安定的な確保に努める。
- 地域との連携を深め、地域の運動拠点として「体験の風をおこそう」運動、「早寝早起き朝ごはん」運動の推進を図る。

2 教育事業について

教育事業は、当施設の看板事業である養護施設の児童を対象とした「タートルズ・キャンプ」を引き続き実施したほか、通学合宿の対象校を 2 校に増やし、別日程で実施するなどその充実に努めました。また、いくつかの事業で IKR 調査や児童用情動知能尺度（EQSC）等の手法を取り入れ、参加者の変容を分析し、特に「タートルズ・キャンプ」については報告書に取りまとめ、関係機関に配布するとともに、HPに掲載しました。

教育事業の概要は、以下の通りです。

(1) 看板事業

タートルズ・キャンプ

児童養護施設との密接な連携により、課題を抱える子供達の自立支援を目的とした事業「タートルズ・キャンプ」を実施しました。今年度は、参加 4 養護施設となり、事業開始から 4 年目を迎えました。本事業名の由来のとおり「自分の殻から顔をだし、まわりを見る勇氣出してほしい。様子を見て、少しずつ手足をだし、ゆっくり一歩ずつ自分のペースで歩みだすことができるように・・・」が確実に実感でき、子供たちの成長を見ることができました。平成 26 年度はさらなる深化をめざします。

(2) モデル事業

通学合宿 テンちゃん一家の一週間（「早寝早起き朝ごはん」運動推進事業）

小学生を対象に当施設から学校に通いながら規則正しい生活リズムの育成とよりよい仲間づくりを目的として通学合宿（6泊7日）を実施しました。今年度は、滝沢村立鶺鴒飼小学校 4～6 年生の児童 43 名と滝沢村立滝沢東小学校 4～6 年生の児童 16 名が参加し、学生ボランティアと楽しい時間を共有しました。

(3) 東日本大震災復興支援事業

(ア) 岩手しぜんとあそぼ（連携・協力事業）

岩手県キャンプ協会・レクリエーション協会・ネイチャーゲーム協会などが組織したアウトドアチャレンジ岩手県実行委員会との連携によるリフレッシュ・キャンプです。秋編では、ピザづくりや動物とのふれあい、冬編では、雪遊びや動物とのふれあいをそれぞれメインとして計 2 回実施しました。

(イ) 福島こども力 ふみだす探検隊 in 岩手山

(公財)東日本復興支援財団との連携により、屋外での活動が制限されている福島県の子供たちに対して、外遊びや大自然の中での体験活動を提供し、子供たちが伸び伸びと遊ぶ中で心身のリフレッシュを図る事業です。2回とも、安比高原にある「株式会社岩手ホテル&リゾート」に協力をいただき、夏には自然学校でバードコール作りを中心に、冬にはスキー体験を中心に実施しました。

(ウ) 親子で楽しむ自然体験 in 冬のテンパーク

子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業で、東日本大震災で被災した親子を対象に、自然の中での活動や同世代の交流をとおして、心を癒し元気づけるとともに、親子の絆を深めることを狙った事業を実施しました。2日とも選択制の体験活動を用意し、参加している子供の年齢や体力に応じて活動プログラムを選べるものを用意して実施しました。

(4) 国際交流事業 : Kids together えいご de キャンプ in テンパーク

被災地域の陸前高田市・大船渡市・釜石市・宮古市・住田町・大槌町・山田市(各回ごとの募集地域は4市町から7市町と違いあり)の子供たちを対象に「kids together えいご de キャンプ in テンパーク」を香港上海銀行(HSBC)グループとNPO法人日本国際ワークキャンプセンター(NICE)との連携事業として実施しました。この事業は、平成23年度に始まった事業で、HSBCグループが資金とボランティアを提供し、NICEがキャンプの企画・運営を担当し、当施設が活動場所と指導者を提供するという三者による連携協力事業です。今年度は、スポーツ交流会をメインとしたスプリングキャンプとハロウィンパーティーをテーマとしたオータムキャンプ、交流の家での雪遊びと安比高原スキー場でのスキー体験をメインとしたウインターキャンプを2回の計4回実施しました。キャンプは、日・英2言語で運営され、参加した子供たちはHSBCグループとNICEの外国人スタッフ・外国人ボランティアと交流することにより英語・外国文化に触れ有意義な時間を過ごしました。

(5) 指導者養成事業

① How to ボランティア, 体験活動支援セミナー

青少年教育施設でのボランティア活動の基本を学ぶ「How to ボランティア」と、実際に「テンパークちゃれんじくらぶ」に参加した子供たちのグループリーダーとしてボランティア活動の実践を学ぶ「体験活動支援セミナー」を開催し、それぞれ多くの高校生・大学生が参加しました。

② 上記のほか、岩手県内の4つの公立青少年教育施設と連携した「岩手県内青少年集団宿泊教育施設職員合同研究会」(宿泊連)を当交流の家で開催し、職員の指導能力向上を図りました。また、岩手大学と連携して「教員免許状更新講習」を実施しました。

(6) 普及啓発事業 : テンパーク広場 2013 (「体験の風をおこそう」運動メイン事業)

当施設が提供する活動プログラムを体験し、施設自体を広く地域の方々に知っていただくことを目的として「テンパーク広場 2013」を開催しました。今年度も1泊2日(土・日)の親子宿泊体験と日曜日みのテンパークまつりの2部構成で実施しました。幸いの好天に恵まれ、延べ4千人を超える家族連れが来場し、ステージ発表、スタンプラリー、創作活動など室内外の活動プログラムを楽しみました。

(7) その他の事業

集まれ！吹奏楽の仲間たち～ミュージックキャンプ 2014 in テンパーク

子供ゆめ基金リレーションシップ事業として、「集まれ！吹奏楽の仲間たち～ミュージックキャンプ2014 in テンパーク～」を小・中学生とその引率者を募り、交流を図りながら、技術の向上に努めました。今回は、吹奏楽を愛好する小学4年生～中学3年生及びその引率者、計619名（小学校5校、中学校22校）が集まり、東北地域では例をみない規模で実施でき、子供たちからも指導者からも高い評価をいただきました。

3 研修支援について

研修支援については、利用団体との事前相談による効果的・教育的なプログラム立案の支援や利用者の立場に立った業務運営の改善に努め、「また来たい」と思ってもらえるよう研修支援の充実をスローガンに取り組んできました。

また、利用者数の年間目標を定めるとともに、日常的に施設内の活動場所の安全点検を行い、安心・安全で清潔な活動環境を確保することに努めました。

(1) 研修指導・支援

利用団体の研修目的の実現のために、利用団体の立場になって研修支援を実施しました。具体的には、当施設職員によるきめこまやかな事前相談を行うとともに、事前相談に来られない団体にも、電話連絡を密にし、利用前の不安をなくせるように努めました。

また、野外炊事、プロジェクトアドベンチャー活動、七宝焼、スキー研修などにおいて直接指導を実施しました。研修の質を高めるため職員研修を行い、より多くの職員が対応できるようにしました。

その他、冬の活動プログラムの充実のため、「スポーツ雪合戦」を新規活動プログラムとして提供しました。

(2) 施設の利用状況及び利用者の評価

平成 25 年度の年間目標として、総利用者数 111,000 人以上、宿泊室稼働率 51%以上を目標としていましたが、実際の利用状況は、総利用者数 117,151 人、宿泊室稼働率 53.3%と目標値を上回ることができました。これはこれまでの広報活動が功を奏したことと、震災による影響が徐々に解消されつつあることが大きな要因であると考えています。ただし、複数の中学校がスキー教室を取りやめたり、高等学校が勉強合宿を取りやめたり、また、予約をしていたもののキャンセルや大幅な人数減・泊数減が多く、キャンセル対策が課題です。今後とも広報活動や成果普及活動を行い利用者の確保に努めたいと考えています。

利用団体からのアンケート「当施設を利用した際の総合的な満足度」をみると、「満足している」と回答しているものが88.3%、「やや満足している」と回答しているものが10.9%、両者を合わせると99.2%が「満足」と回答し、高い評価を得ることができました。利用団体からの意見・要望等については、事務連絡協議会でその内容を確認し、対応できるものはすぐに改善するように心がけています。

(3) 利用者の安全で快適な生活環境の確保、危機管理

利用者が安全・安心で清潔な生活環境のもとで、快適な研修活動が実施できるように、施設設備の整備・点検を定期的に行うとともに、想定される様々な災害・事故等が発生し

た場合の具体的対応については、危機管理マニュアルを策定しています。

スズメバチ対策については、トラップを自作し敷地内各所に設置するとともに、巣を発見し次第駆除しています。クマ対策としては、利用者が野外活動を行う前にコースを職員が爆竹を鳴らすなど安全確認をしてから活動に入らせていただいています。クマ出没情報には屋外で活動する団体には速やかに伝え、屋内への退避等の対応を取っています。

館内での防犯のため利用者玄関及び宿泊棟入り口に防犯カメラを設置しております。

4 地域との連携、社会貢献について

施設の運営に当たっては、様々な団体・個人と連携し、協力をいただいています。また、社会教育実習生等の受け入れを行っています。

(1) 教育事業における連携・協力

教育事業は、その目的・内容によって地域の団体との連携が不可欠です。教育事業における主な連携先は以下の通りです。

- タートルズキャンプ・・・児童養護施設・情緒障害児短期治療施設など
- 教員免許状更新講習・・・岩手大学
- テンパークまつり・・・児童養護施設、岩手県教委、地元団体・企業など
- 通学合宿・・・滝沢村立鶴飼小学校、滝沢東小学校、滝沢村教育委員会
- Kids together えいご de キャンプ・・NICE, HSBC, 陸前高田市教育委員会など
- いわてしぜんとあそびキャンプ・・・アウトドアチャレンジ岩手県実行委員会

(2) 岩手県内の青少年教育施設との連携・協力

例年、岩手県内の青少年教育施設（県立県北・県南・陸中海岸青少年自然の家、盛岡市立区界青少年自然の家）と合同で集団宿泊教育施設連絡協議会（宿泊連）を開催し、研究協議や情報交換を行っています。今年度は、当交流の家で開催され、岩手大学教育学部長の新妻次男教授の講演を行った後、管理・指導・食堂部門別の分科会で研究協議が行われました。また、当交流の家から「体験の風をおこそう」運動の趣旨を説明し、のぼり旗を各公立施設に提供し設置を依頼するとともに、例年10月と定める推進月間での事業登録の協力依頼を行いました。

(3) ボランティアとの連携・協力

子供を対象とした教育事業の際に大学生や高校生などにグループリーダーとして職員の補助をしてもらうとともに、広大な施設の環境整備は職員だけでは限界があるため、公立学校の生徒及び地域住民からなるボランティアの協力により、草刈り・花壇整備などの環境整備を行いました。

① 施設ボランティア（法人ボランティア）

大学生や高校生などによるボランティアを養成し、希望者には法人ボランティアとして登録してもらい、様々な教育事業に協力をいただいています。今年度75名のボランティア（新規43名、継続32名）が登録していて、12事業・延べ79名のボランティアに協力いただきました。

② 環境ボランティアによる環境整備

今年度も地域住民を主とする環境ボランティアによる環境整備活動を実施いたしま

した。4月から11月までの期間、施設内外の草刈りやキャンプ場などの整備を職員と共に行いました。特に夏はマイマイガが大発生し、建物壁面やキャンプ場の樹皮等に大量の卵を産み付けられましたが、環境ボランティアの献身的な働きによりその多くを駆除することができました。(年間7回、参加者延べ101名)

③ 岩手県立盛岡峰南高等支援学校生徒による花壇整備

特別支援学校の社会奉仕活動及び農芸基礎実習の一環として、岩手県立盛岡峰南高等支援学校生徒による花壇整備を実施しました。生徒と教職員は、5月から10月までの間、月1回程度来所し、施設内にある花壇2か所(利用玄関前、第2駐車場前)にパンジーやサルビアなどの植栽をはじめ、除草、追肥等の作業を行いました。整備の行き届いた、きれいな花に迎えられて、利用者からも大変喜ばれています。(年間8回、参加者延べ100人)

(4) 社会教育実習生・インターンシップの受け入れ

今年度も46名(盛岡大学22名、筑波大学2名、大正大学2名)の社会教育実習生の受け入れを行いました。また、インターンシップ4名(岩手大学、岩手県立大学、岩手県立盛岡短期大学2名)の受け入れを行いました。

(5) 10年経験者研修の受け入れ

今年度は「教職経験者10年研修」として、岩手県立盛岡農業高等学校教諭1名の受け入れを行いました。

5 職員の資質向上について

事業における企画力・指導力・安全指導、利用者との接遇サービス・コミュニケーション能力、職務遂行上の専門能力、服務規律等の職員の資質向上を目指し、職員研修を行いました。施設内研修として19件(参加者延べ132名)の研修を実施したほか、外部の研修には17件(参加者延べ20名)の研修を受講しました。

このような研修は非常に重要と考えておりますので、今後も積極的に実施・受講し、職員の能力向上を図り、全職員が利用者に対し、親切・丁寧で迅速な対応を心がけたいと考えております。